

図書館 コーナー

～新着図書～
「警官汚職」



(読売新聞大阪社会部著 角川書店)

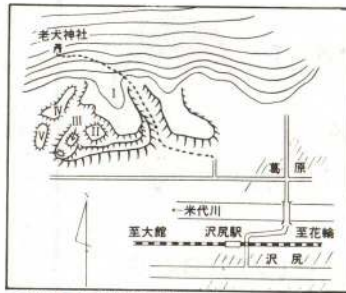
昭和57年から58年にかけて、大阪府警を舞台にした警察史上まれにみる賭博機汚職事件を追跡した報道ノンフィクション。事件は、大阪府警曾根崎署・現職警官の逮捕が始まるが、警察機構のトップの自殺という大波乱をよんで、予想外の展開をした。事実の報道の積み重ねては読者に伝えきれなかった事件の本質を伝えようとする一冊。

〈一般書〉

- ◇スニョンの一生(佐藤愛子著)◇歳月(吉田洋一著)◇人は本なしには生きられない(清水英夫著)◇霊長類学への招待(河谷雅雄著)◇杞憂夢(坂上弘著)◇聞き書き 岩手の食事(日本の食生活全集岩手編集委員会編)◇挑戦(志茂田景樹著)◇第四の核 上・下(F・フォーサイス著)◇ぼくの間手帖(森本毅郎著)◇書国探検記(種村季弘著)◇鱗錦の局、捨文(中里恒子著)◇童子考(郡司正勝著)◇ごみと都市生活(吉村功著)◇白秋・遥空(宮柊二著)◇片翼だけの天使(生島治郎著)◇ハーバード通信(板坂元著)ほか

〈児童書〉

- ◇自然の中の人間シリーズ 森と人間編全10巻(PHP刊)◇どの本よもうかな? 全2巻(日本子どもの本研究会編)◇創作子どもSF全集 全20巻(国土社刊)◇おはなしてこい 全2巻(武井照子ほか編)ほか



交通・国鉄沢尻駅下車、老犬神社方面へ徒歩20分

葛原館

大館の歴史散歩

①

葛原集落の西方五百m、米代川の河岸段丘を利用して構築された城館跡で、ちょうど老犬神社の眼下に広がる台地がそれにあたる。葛原館は東部、中央部、西部の三区に分けることができる。

中央部はI郭(東西約百二十五m、南北約百五十m)、II郭(東西約四十五m、南北約四十m)、III郭(東西約二十五m、南北約三十五m)と櫓台(物見台)からなる葛原館の中心をなすもので、これらのうちI郭の字名が古館、II、III郭、櫓台と空堀の字名が堀間で、II郭が主郭と考えられる。

東部は東西約百三十m、南北約百mの不整形台地で、字名が竹林である。

西部にはIV郭(東西約四十m、南北約百m)、V郭(東西約三十m、南北約七十五m)の二つの郭がある。西部の郭は形態的に中央部のそれと異なり、大館地方の城館形態上から西部の方が中央部より古いといえる。



▲老犬神社からみた葛原館と三哲山

葛原館に関する記録、伝承等は詳しく伝えられていないが、先にみた字名のほかに、根小屋、屋布後、下屋布、屋布下などの「マチ」を伺えるものや、漆畑、瓜畑、大畑、前田、苗代沢などの農耕関係を伺える字名があり、一方、保存状態も良好で、形態や規模から大館地方では第一級の城館跡であるといえる。

(市史編さん室)

市民の声

～空ビン・空カンの投げ捨てに思う～
清涼飲料や健康飲料の空カン、空ビンの投げ捨てによるマナーの低下が叫ばれて久しくなりますが、これといった解決策もないというのが現状のようです。

先日のことですが、道路に捨てられた健康飲料の空ビンが大型車に踏みつぶされ、そのガラスの破片が歩いてきた私のところまで飛んできて、危うく当たるところでした。それに道路に散らばったガラスの破片に子供たちがころんだらと思うとゾッとします。そこでマナーの教育をすることは当然ですが、商店の皆さんにガラスビンの健康飲料の自動販売機の設置を自粛してもらうというのをもひとつの方法かと思えます。また秋田市の千秋公園では、空カンのデポジット制度(空カンを販売店に返すとお金が戻ってくる制度)が行われており、たいへん成果が上がっていると聞いています。当市でもこのような制度を採用したらいかがなものでしょうか。

(川口・S)

われら サークル仲間

№.6

十二所子供空手クラブ

十二所公民館を会場に毎週水・金曜日午後三時から「十二所子供空手クラブ」が活動しています。

このクラブでは、現在小学一年生から六年生まで、十人の女の子を含む三十八人が元気よくけいこをして



います。北土館二段の奈良政己さんの指導のもと二年前にはじめられたこのクラブは、空手を通じて子供たちが礼儀を身につけ、丈夫な体と健全な精神で成長してくれることを目標にしています。「入会前は朝ごはんを食べられなかったのが、今では、おいしく食べられるようになったという子供も多いですよ」と奈良さん。

参加している二人の子供のはなしを聞いてみました。

佐藤真弓さん(成章小二年)

「私は、体を鍛えるためと、大人になつてきちんと仕事ができるように入りました。はじめはなんにも楽しくなかったのが、今では、たいへん楽しくなりました……」

木次谷たかひくん(成章小一年)

「いつもおねえちゃん(三年生)とケンカをするので負けるので強くなりたいと思います。でも今はケンカはしません。大きな人と友だちになれたのでけいこ日待ちが遠いです。」

参加している子供たちはたいへん礼儀正しくはきはきしていています。